

患者さんの就労状況も考慮し、

スムーズな連携でよりよい肺がん治療を



呼吸器外科部長

五来 厚生
ATSUO GORAI

呼吸器内科部長

西平 隆一
RYUICHI NISHIHIRA



関東労災病院はがん診療連携拠点病院として、地域のがん治療に貢献しています。肺がんの治療について、呼吸器内科の西平隆一部長と呼吸器外科の五来厚生部長に伺いました。

労災病院ならではの就労支援と横のつながりが特徴

五来医師：肺がん診療に携わる呼吸器外科、呼吸器内科、放射線科、腫瘍内科で診断や治療について週1回、カンファレンスをしています。お互いの科を紹介するなど、垣根が低く横のつながりが強いのが当院の長所です。

西平医師：呼吸器内科と呼吸器外科は同じフロアにあり、必要があればその場で診てもらって相談できるので、時間のロスを少なくできます。ご紹介いただいた地域の先生には、カンファレンスを通して診断と治療方針が決まった段階で紹介状のお返事をする方針です。地域の先生には専門家として不足なく情報をお返ししたいと考えています。

レントゲンの二次読影や肺がん治療で地域医療に貢献

五来医師：コロナ禍以前は、私たちが川崎市の検診のレントゲン画像の二次読影を担当する際に、近隣の開業医の先生にご自分で撮ったレントゲンを持参していただき、膝を突き合わせて読影していました。今は働き方改革もあり、送られた画像を読むだけになりましたが、専門の科として力になりたいと思っています。この地域の4つの医療機関で、合同の勉強会も行ってきました。

西平医師：肺がんのご紹介では検診施設や他院で撮影したレントゲンで異常を疑う症例のほか、さまざまな状況があります。地域の先生からのご紹介では、画像を見てすぐ手に負えないから診てほしいというケースのほか、治りの悪い肺炎だと思って治療していたけれども治らないという症例がありました。この所見があればがんだと明言するのは難しいので、先生方のご判断でがんが疑われる場合は早めにご相談ください。スペシャリティが高い開業医の先生もいらっしゃるので、先生方のご判断を尊重しています。病院と診療所の機能分担も大切なので、それぞれの役割を果たすことが地域医療の向上につながると考えています。



侵襲がすくない気管支鏡検査やCTガイド下生検

西平医師：画像でがんが疑われて症状がない場合、呼吸器内科が最初に診察します。肺がんの疑いがあればCTや腫瘍マーカーの検査を行い、必要があれば呼吸器内科で気管支鏡の検査を行っています。腫瘍影があって気管支鏡のアプローチが難しい場合は、CTガイド下生検が可能です。CTガイド下生検は放射線科も含めたカンファレンスで検体の採取法を含めた検討を行い、1泊2日で入院し、生検の手技は放射線診断科が行っています。

五来医師：気管支鏡で診断がつかない場合は、診断的な手術も検討しますが、当院は放射線科がCTガイド下生検を積極的に行っています。手術より侵襲が少ないCTガイド下生検で診断がつく症例は多々あり、進行がんのため手術で根治できる段階でない患者さんなどには大きなメリットがあるでしょう。

呼吸器内科は肺がん治療のゲートキーパー

西平医師：内科では、化学療法の初回や薬を変えた場合は原則入院していただき、副作用がなく可能であれば2回目以降は外来で治療するケースが多いです。患者さんの希望によって2回目以降も入院で行う方もいます。免疫チェックポイント阻害薬の導入だけであれば3日くらいの入院になります。細胞障害性抗がん剤のケースでは、骨髄抑制がどの程度になるか初回では分からないので概ね2週間程度の入院となります。分子標的薬を使う場合は副作用で薬を中断、変更する場合があります、10日から2週間程度の入院になるでしょう。

当科は手術以外の治療の窓口、いわばゲートキーパーです。抗がん剤の薬物療法や放射線治療で入院になる場合、呼吸器内科で対応します。

来院されて治療ができないケースでは緩和的な処置を行い、痛みを取るために放射線の照射をして、在宅治療の手配、あるいは転院や施設の紹介が必要でしょう。若年の患者さんで新薬を使う方が良い可能性があれば、がん専門病院の受診を提案するケースもあります。

完全鏡視下胸腔鏡手術が標準、進行肺がんには拡大手術も

五来医師：呼吸器外科では、完全鏡視下胸腔鏡手術を標準術式にしています。開胸手術にくらべて傷が小さめで術後の痛みが少なく、入院期間も短くなるため、安全を心がけて行っています。開胸手術では側胸部を20-30センチ開くのに対して、胸腔鏡手術では最大で4センチの傷を1か所と1センチ程度の傷を3か所開けるだけで術後の見目がきれいです。

進行肺がんでは、がんが浸潤した胸壁や肋骨などの臓器を合併切除する拡大手術が必要です。片肺を取る状況でも気管支形成をすれば、がんを切除して肺の上葉や下葉を残せる可能性がある場合があります。そういった症例には気管支形成や胸壁の再建を当科でも積極的に行っています。



肺がん治療、呼吸器疾患で地域に貢献したい

西平医師：肺がんは完全に治って当たり前という病気ではありません。だからこそ就労状況も含め、患者さんの現状にあったご提案を心がけています。当院は呼吸器外科や放射線科、腫瘍内科と連携し、地域の先生に安心していただける肺がん治療を提供したいと考えています。ご紹介の際は画像資料の添付をお願いします。その他の検査は必要ありません。X線の二次読影も受けておりますので、お気軽にお問い合わせください。

五来医師：患者さんに適した治療を、できるだけ低侵襲の方法で提供できるように日々、こころがけています。X線で少しでも肺がんの疑いがあるケースは、できるだけ早期にご紹介ください。地域の先生に何かがあったらまず関東労災病院に紹介しようと思っていただけよう引き続き精進してまいりますので、今後ともどうぞよろしく願いいたします。

Opinion

患者さんのご紹介や当院へのご意見などは
地域医療連携室にお気軽にご連絡ください



呼吸器内科HP



呼吸器外科HP



独立行政法人労働者健康安全機構

関東労災病院

地域医療連携室

〒211-8510 神奈川県川崎市中原区木月住吉町1-1

TEL 044-435-5031 (直通)

受付 月～金曜日 AM8:15～17:00